

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2017.4 April vol.39

二月定例議会

## 未来ある子どもたちのために

### 子育て環境を整え、食の安全を確保する

#### 子育て支援について

保育所・幼稚園に関することを福祉部・教育委員会部局を統合して子育て支援を行っている高知県での調査をもとに質問しました。

島根県と同様に、高知県でも、保育所に勤務する保育士の約半数が臨時、パート職員という状況でした。代替職員の確保も難しい中で、正規職員も含め研修機会が十分でない状況があり、これに対処するために、園内研修の支援を指導主事や幼保支援アドバイザーの派遣によって保育所、幼稚園が園内で研修を行う

て、保育、教育の質を上げる取り組みや、チームで保育、教育ができる体制づくりなどが行われていました。同じ子どもたちの保育・幼児教育にあたる保育士・幼稚園教諭が、同じ目線で子どもたちの成長を見守ることが必要です。そのため行政の支援のあり方について質しました。

#### 保育士・幼稚園教諭双方が参加できる研修は年に何回開かれ、どのくらいの保育所、幼稚園から参加され、参加者はどのくらいか。

教育長 県教育委員会が平成28年度に実施した研修のうち、保育士、幼稚園教諭の双方が参加できる研修は2つ。

1つは、幼保小連携研修で、年1回開催。参加者は54保育所等から58名、36幼稚園から44名、うち私立は2園、3名。

2つ目は就学前人権同和教育講座。県の東西2会場で年1回開催し、参加状況は70保育所等から74名、29幼稚園から30名、うち私立は2園、2名。

保育・幼児教育の質の向上を目的に、保育所や幼稚園を一体的に支援できる体制について、どのように取り組まれているのか。

知事 県では、総務部や健康福祉部、教育委員会など関係部局が連携、協力して支援する必要があります。来年度、保育士を対象とした障がい児保育研修に、幼稚園教諭の参加ができるようにするなど、保育士や幼稚園教諭と一緒に研さんする機会を拡大する。

今後、さらさらどのような連携や体制の強化ができるのか、保育園、幼稚園等の現場、保育者ニーズ、各県の取り組みをよく研究して、検討したい。

食の安全を求めて

ミツバチを飼育している養

蜂家の方から「昨年ミツバチが大量に死んだが、全国各地でも発生していて、ネオニコチノイド系農薬によるものと言われている」との話がありました。

カメムシの駆除に効果があるとされるネオニコチノイド系農薬は、昆虫の神経系をターゲットに攻撃するもので、そのため人への影響もあらとされています。欧米では、この農薬と発達障害、不妊症、パーキンソン病、アルツハイマー病との関連についての研究が進んでおり、使用規制が進んでいます。フランスでは、2018年9月までに使用禁止に向けて取り組まれています。

日本におけるネオニコチノイド系農薬の使用規制について聞か。

農林水産部長 我が国では、ネオニコチノイド系農薬について、安全性の問題から販売が禁止されている農薬には入っていない。

農薬の使用基準を遵守する前提で、現在、水稲のカメムシ防除などに使われている。その中で、ミツバチへの毒性が比較強い農薬については、散布の際に巣箱やその周辺にからさないようにすること、また、養蜂が行われている地域では、関係機関へ農薬の散布時期などの情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めるといった注意事項を農薬のラ



一問一答で知事に質問

ベルに表示することとされている。

ミツバチの大量死について県内の状況と、それに対する対策について聞か。

農林水産部長 県内で千匹以上のミツバチのへい死が発生した場合は、県への被害報告により把握している。28年度の発生件数は2件で、いずれも原因は特定できていない。

県では、農薬によるミツバチ事故を避けるため、ミツバチの飼育位置や水稲の防除計画の情報提供を行っているが、作物の防除作業の日程は天候などで変更されることがあるし、蜂箱がとれる量によって、巣箱の設置期間などが変更される場合もある。そのため、現場レベルでは難しい点もあるが、養蜂家と周辺

の大規模生産者との間でミツバチの飼育場所と農薬散布についての情報共有をきめ細かく行っていくための合意形成を支援してきた。今後ともこうした取り組みを他の地域でも行っていきたい。

子どもたちのためにも、給食には有機野菜などの使用が望ましいが、どのような状況か。

農林水産部長 統計的に調査したデータはないが、規模が小さく食材の選択などの自由度が大きい保育園などで有機栽培されたお米などを中心に、生産者との直接取引などを通じて利用されている。

小学校や中学校の給食になると、児童生徒の人数が比較

機能を強化して、部局による縦割りにこだわらない横断的な政策企画、立案を求めてきたところですが、その中にあるの広聴広報だと私は認識していません。他の議員からも、広報部設置の明確な意図が見えないと議論になりました。政策企画から広聴広報機能を別にするということが、

これまで、政策企画局の

広報部から島根の魅力発信

3月8日の総務委員会で、県の組織改編について議論になりました。それは、新年度の組織改編によって、現在、政策企画局にある広聴広報課を取り出して、広報部を新設し、広報室と県民対話室を置くというものです。

横串を2本差すような体制」この声も上がりましたが、そうならないよう、両部局さらには庁内が連携した体制を構築し、「しっかりと広聴広報機能を強化し、島根の魅力を掘り起し県内外に発信していく」という執行部の答弁に期待して承認しました。

的少なく、生産者のグループ化により一定量供給できるといった供給体制が整っている場合に限定されている。

積極的な有機農業、無農薬、減農薬の取り組みを進めていく必要があるが、今後の取り組みについて聞か。

農林水産部長 規模拡大のための施設機械の導入支援などや、ロットの確保や長距離になる流通コストの削減のための生産者のグループ化の推進、有機JASの取得、GAP(適正農業管理)の実施などに必要な支援を行っていく。

環境保全型農業(農薬・化学肥料の低減、有機栽培)

	取組耕地面積	耕地面積比率
全国	74,180ha	1.7%
島根県	1470ha	3.9%(全国4位)
	うち有機JAS認証取組耕地面積	耕地面積比率
全国	10,043ha	0.2%
島根県	232ha	0.6%(全国1位)

農林水産部長 統計的に調査したデータはないが、規模が小さく食材の選択などの自由度が大きい保育園などで有機栽培されたお米などを中心に、生産者との直接取引などを通じて利用されている。

小学校や中学校の給食になると、児童生徒の人数が比較

機能を強化して、部局による縦割りにこだわらない横断的な政策企画、立案を求めてきたところですが、その中にあるの広聴広報だと私は認識していません。他の議員からも、広報部設置の明確な意図が見えないと議論になりました。政策企画から広聴広報機能を別にするということが、

これまで、政策企画局の

広報部から島根の魅力発信

3月8日の総務委員会で、県の組織改編について議論になりました。それは、新年度の組織改編によって、現在、政策企画局にある広聴広報課を取り出して、広報部を新設し、広報室と県民対話室を置くというものです。

横串を2本差すような体制」この声も上がりましたが、そうならないよう、両部局さらには庁内が連携した体制を構築し、「しっかりと広聴広報機能を強化し、島根の魅力を掘り起し県内外に発信していく」という執行部の答弁に期待して承認しました。

的少なく、生産者のグループ化により一定量供給できるといった供給体制が整っている場合に限定されている。

積極的な有機農業、無農薬、減農薬の取り組みを進めていく必要があるが、今後の取り組みについて聞か。

農林水産部長 規模拡大のための施設機械の導入支援などや、ロットの確保や長距離になる流通コストの削減のための生産者のグループ化の推進、有機JASの取得、GAP(適正農業管理)の実施などに必要な支援を行っていく。

島根の魅力を生かした観光事業に食の安全を加え、安全でおいしい食の提供を進めていくことも必要であるが、所見を聞か。

知事 県外、海外からの方々には、島根でとれた農産物だから安全だという一般的な説明ではなく、安全性が確保された農産物であると説明することは大事。このため、県内の生産者に対して農薬、肥料の適正使用など、生産者が遵守する事項を定めて管理するGAPや、県が公的に認証する「美味しまね認証」の積極的な普及、活用を考えていきたい。

# とまちゃん通信

会派県外(香川県・高知県)調査

## 視点を变え、官民一体となって取り組む

民主県民クラブでは2月1日〜3日、香川県と高知県で調査を行いました。

### シャッター街からの再生

香川県高松市丸亀町商店街は、バブル崩壊時、シャッター街化していました。その少し前から、これではいけないと、商店街では再生に向けた計画作りをし、この計画の実行に乗り出したのです。それは、土地の所有権と利用権を切り離すことでした。

ただ、この再生計画の実施には法律の壁があり、市も県も支援に動いてくれませんでした。出向き、法律の規制を破ることができないのか相談し、識者による委員会で議論が進む中で、国の実証実験として取り組むことができたのです。規制の壁にも負けず、商店街の皆さんも役員を信頼し任せてくれたことも大きな成功の要因です。



丸亀町商店街振興組合理事長の古川康造さん(左端)と調査メンバー

## 60年間の定期借地権を設定することで土地の所有権を失うことなく、土地が有効に利用され、そのことが人を呼び、商店街の活性化につながり、歩いて暮らせる街になっています。商店街の熱意と努力の賜物を見せつけられ、脱帽するばかりのまちづくりでした。

### 高校生議会の取り組み

香川県議会では、これまで議長提案という形で新成人議会やフレッシュユマン議会等に取り組んできました。

昨年度は、議長から高校生議会が発案され、県内各高校で議会に出る高校生を選挙によって選出し、地方創生をテーマに意見発表し、議員が評価して上位5名の意見を決議とし、知事と議長に提出されました。選挙権が18才に引き下げられたときでもあり、主権者教育にもつながる取り組みとして評価しますが、残念ながら継続して行われるものではなく、その時の議長の発案という形を取っているため、今年度は実施されていないそうです。この取り組みを参考に主権者教育の一つの取り組みとして私たちが検討したいと思っています。

### 縦割りを廃し、横断的な視点で取り組む

高知県に移動し、高知県庁での調査の前に当初予定になかったNPOで運営する高知こどもの図書館を視察しました。休館日であるにも関わらず快く対応していただきました。寄付などで図書を集め、



高知こどもの図書館について聞く

とんどボランティアで運営する団体の熱意を視察して感じました。高知県庁にて移住対策の取り組みと外国客船受け入れとおもてなしの取り組みについて調査しました。外国人観光客受け入れに、高知県でも外洋に面している

### 話題あれこれ

3月6日、県議会議員有志で島根県ろうあ連盟による手話言語条例の制定に向けての勉強会を行いました。全国各地で手話言語条例が制定されており、隣の鳥取県では2013年10月に条例を制定、全国74自治体で条例が作られています。

聞こえない人たちのコミュニケーション手段として手話は有効であり、皆が手話を理解し、学ぶことによって



手話言語条例について説明する島根県ろうあ連盟の皆さん

港灣を持つ強みを生かしてさらに港灣を整備し、年々増える外国客船を利用する観光客の受け入れを進めています。さらに、観光振興部を創設し、おもてなし課を設置して観光客を迎える環境整備に取り組んでいます。港灣整備をする土木部と観光振興部が連携して外国客船による観光客受け入れに、民間の力も借りながら官民連携した取り組みを進めています。

高知県では、平成15年に「子どもの健やかな育ちのため」に、ここにも質の高い保育・教育を受けることが出来るよう、就学前の保育・教育の充実を図ることを目的に教育委員会に幼保支援課を設置し、行政の窓口の一本化を

聞こえない人たちの社会参加を促していくことにもなります。条例制定によって学ぶ環境の整備や、通訳者の養成、配置によって手話が使いやすい環境が整備されます。何よりも住民みんなが手話について理解するきっかけづくりにもなります。

### 高校生の主権者教育

3月15日、松江北高で主権者教育を参観しました。

この日は、2年生文系クラスの方の授業で、担当の武藤立樹先生のほかに、島根県弁護士会の佐藤力弁護士と東京大学法科大学院の皆さんも加わっての授業でした。私が聞いても勉強になる授業で、成人とは何歳からとい

行いました。そして、親の子育て力の向上や良好な親子関係の構築のための取り組みを行っています。縦割り行政を脱して、就学前のこどもの育ちを支援するという視点で組織を編成して取り組んでいます。



高知県庁で担当者から説明を受ける



弁護士・大学院生を講師に主権者教育

うことをテーマに、各国の例や少年法などの法律の適用年齢の話や法科大学院の学生が生徒たちとやり取りしながら講義をされました。講義の内容をもとに、グループで話し合い、生徒たちも積極的に意見を出し合ったり、発表したりする姿を見させてもらい、主権者教育への理解を深めました。

### 平和を希って

3月9日、市民活動センターで、加納美術館名誉館長 加納佳世子さんによる「恒久平和を希(ねが)って」画家 加納莞蕾さんと題しての講演会がありました。

加納佳世子さんの父 加納莞蕾さんは、画家であるとともに、戦後フィリピンで戦争犯罪委員会の軍事法廷にかけられた日本軍の捕虜の皆さんの釈放を求めて活動された人です。戦後、当時のフィリピンのキリノ大統領や関係者に何通もの書簡を送り、戦犯の釈放を実現しました。

キリノ大統領は、この大戦で妻子や親せきを日本軍に殺された人ですが、その憎しみを超え「許し難きを許し」、日本との友好関係を築いた人です。キリノ大統領は、戦犯の赦免にあたって、「私の子どもや国民が、やがては我が国の恒久の利益の友となるかもしれない国民に、私から憎悪を受け継がないことを欲するが故に、恩赦を行うのである」との声明を出しています。

そのキリノ大統領の決断に関わった人がこの島根にいたことに、今日の講演を聞き感動しました。そして娘である加納佳世子さんもまた、お父様の信念を受け継ぎ、教育に生かしてこられた人でした。



加納莞蕾の平和活動について話す加納佳世子さん